

第1章 酒田市中長期観光戦略策定の背景・目的

(1) 背景・目的

酒田市は江戸時代、北前船交易の重要な寄港地として繁栄したが、その後の流通の変革、モータリゼーション化の流れから「港町・酒田」の賑わいは失われていった。

しかしながら酒田市には、当時の繁栄を偲ばせる港町文化、北前船により持ち込まれ発展した京の文化や食文化等が今なお色濃く残っている。

また、酒田市は「おしん」や「おくりびと」等の魅力的な映画のロケ地や、北前船によってもたらされた山居倉庫や山王くらぶ、本間家旧本邸などを中心的な観光資源として多くの観光客を迎え入れてきた。しかしながら、昨今では多様化する消費者ニーズに必ずしも的確に応えきれず、観光客の伸び悩みといった状況となっている。

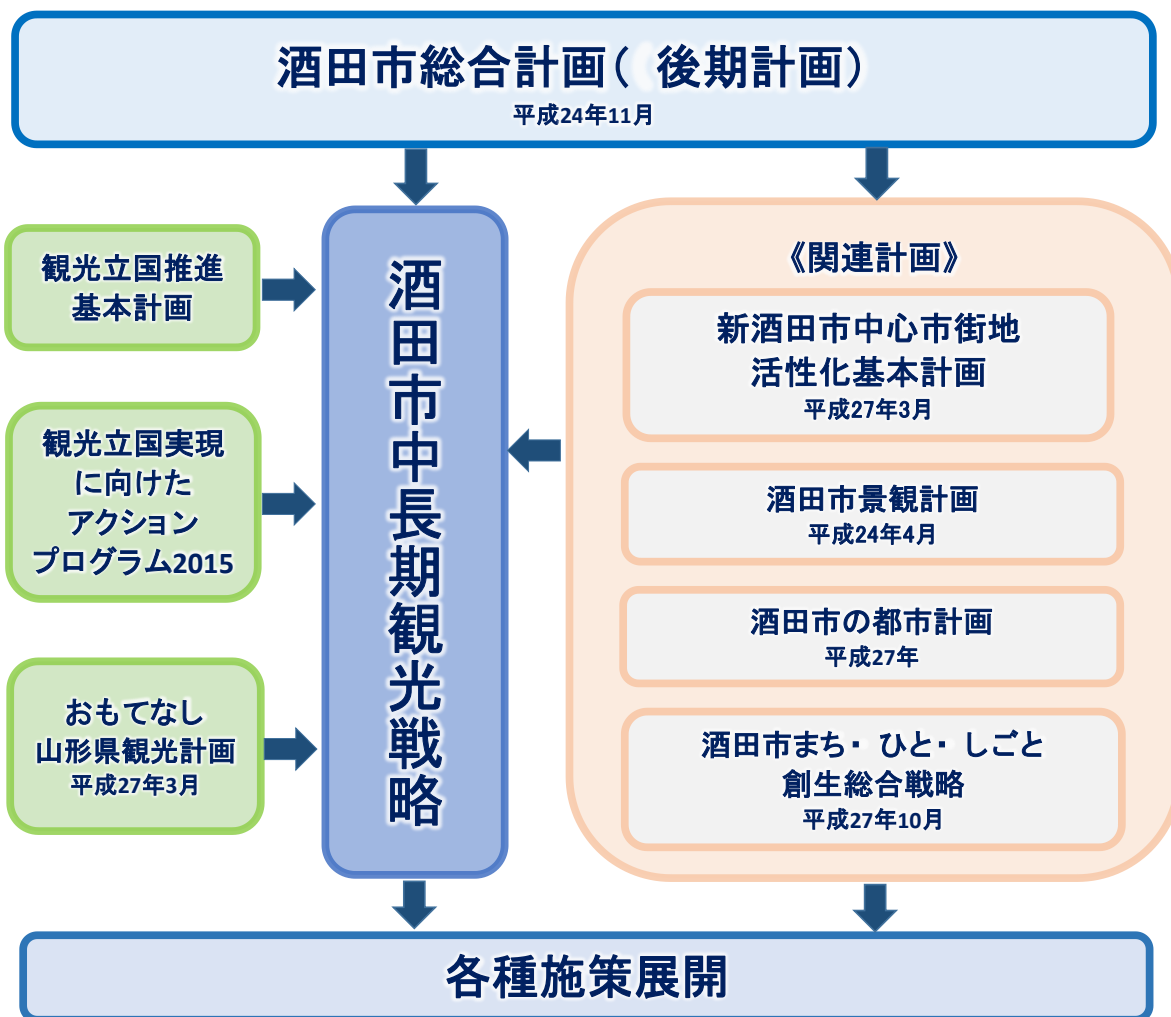
このような状況下において酒田市では、官民挙げて観光振興に取り組んでいるが、主要観光施設の合計入込客数は平成25・26年と2年連続で280万人弱にとどまり、宿泊売上額の減少など、酒田市の観光は全般的に産業として十分に成り立っているとは言えない。これらを含め酒田市の観光においては以下のような観光の課題を抱えている。

- ① 酒田市の知名度が低い
- ② 酒田に観光に行く動機が無い（誘客力のある観光資源が不明）
- ③ リピーターが少ない
- ④ 観光になるイベントや祭りは何か不明
- ⑤ 関係機関の役割分担が不明確であるため、観光の推進体制がしっかりしていない

そのため、今後の酒田市の観光を推進していくにあたり、昨今の社会状況や観光を取り巻く環境の変化、消費者ニーズの多様化などを踏まえつつ、行政だけの戦略ではなく、市民や民間事業者を巻き込み、さらには酒田市だけではなく庄内地域が連携して観光に取り組むための、中長期の観光戦略を策定する。

(2) 位置づけ

経済状況や社会情勢などの影響を受けやすい観光分野においては、国や山形県の動きはもちろんのこと、酒田市の総合計画や関連計画と整合性を図りつつ、消費者のニーズを踏まえ、酒田市の特性に合った戦略を構築する。



(3) 期間

酒田市中長期観光戦略の計画期間は平成28年4月から平成38年3月までの10年間とし、平成28年4月から平成33年3月までの前期5年間の中期計画期間と定めるが、必要に応じて計画期間の見直しを適宜行う。